

■ 島根県公立大学法人評価委員会からの令和4年度業務実績に関する評価を受けての改善策

評価委員会からの「大学の教育研究等の質の向上」項目に対する評価の遅れている点(課題がある点)	島根県立大学の改善策
<p>○ 学生による授業アンケート回答率・教員によるフィードバック率、科学研究費助成事業の申請率等については、前年度から改善は見られる部分のあるものの未だ不十分であるため、更なる改善の取り組みを早急に実施。</p>	<p>○ 学生による授業アンケート回答率・教員によるフィードバック提出率の改善について</p> <p>浜田キャンパスでは運営委員会や教授会で、副学長からコース長や各教員に向けて、授業アンケートの回答率及び授業アンケートのフィードバック提出率の向上を依頼しております。結果としてその呼びかけが行き届かなかったことは否めませんが、フィードバック提出率は、それまでの総合政策学部の提出率に比べると(20%台で推移)、国際関係学部・地域政策学部設置初年度の令和3年度は大きく上昇しました(50%弱)。これは教員ひとりひとりが自分の授業が新学部の学生たちにどう受け止められているかについて関心が高かった結果と受け止めております。しかしながら、授業アンケートの結果はそれまでと変わらずおおむね高評価であったことで、その後の取り組みがおろそかになっているのではないかと分析しています。アンケート回答率及びフィードバック提出率の向上については即効性のある対策はないように思われますが、授業計画にアンケートの回答時間を織り込んだり、FD研究会を開催するなど他のFD活動をくふうすることもあわせて、引き続き、教員のあいだの意識醸成に努めて参ります。</p> <p>○ 科学研究費助成事業への全学の申請率の向上について</p> <p>(全キャンパス) 引き続き、以下のとおり対策を講じます。</p> <p>①説明会・研修会の実施 科研費公募要領学内説明会、採択実績のある教員による研修会の実施に加え、公立大学協会主催の科研費に関する研修会を全学の教職員へ周知する。</p> <p>②科研費申請書個別支援サービスの実施 特に科研費申請回数・採択実績の少ない教員に対して外部リサーチ・アドミニストレーター(URA:研究マネジメント人材)による申請書個別支援サービスを行う。</p> <p>③科研費採択者分研究助成金の交付 インセンティブとして、科研費(新規・継続問わず)に採択された専任教員に直接経費の1割相当額を個人研究費に追加配分する。</p> <p>(松江キャンパス) 全キャンパスの対策に加え、前年度不採択だった教員へブラッシュアップした研究計画での再応募を促しています。また、教員個人評価制度を見直し、教育・研究等について所属学科長・学部長と面談を実施する仕組みとしました。これにより、教員の質の向上並びに教員の意識及び意欲の向上を図ることとしており、研究活動についても積極的な応募を勧め、申請率の向上に努めています。</p>
<p>浜田キャンパスの新学部の初めて卒業生を輩出する令和6年度末に向け、</p> <p>○ 大学院北東アジア開発研究科の見直しについて早急に検討。</p>	<p>○ 浜田キャンパス大学院のあり方委員会を設置して、学内進学促進等大学院の活性化を図ります。</p>